

次期総合計画の策定方針

1 第五次総合計画の検証

	現状等	導かれる考え方
1	48の基本施策の市民満足度は、おおむね上昇している。	第五次総合計画は順調に展開されているととらえ、 <u>現行の総合計画を継承しつつ、課題を抽出し、改善・発展させていく。</u>
2	「春日井市を暮らしやすいまち」と思う人が90%以上である。	
3	80%以上の市町村が人口減少するなか、本市の人口はまだ増加している。	
4	他の行政計画と進行管理、効果検証が重複している。	効果検証を効率的・効果的に実施するため、 <u>各分野の行政計画との役割分担や組織（各分野）に対応した仕組みとする。</u>
5	複数の部署に横断する基本施策は、効果検証が分散している。	
6	総合計画の全体検証は、5年に1度（外部有識者等）。	<u>外部有識者等による全体検証を増やし、専門的な意見等を参考にする。</u>

2 市民参加

(1) 市民ワークショップ「TALK&CAFE」

	現状等	導かれる考え方
1	職員が市民の声を聞く機会と地域の人同士が話し合う機会が少ない。	次期総合計画の策定だけでなく、市政全般で市民ワークショップを活用する。
2	市民が考えるキーワードが抽出できる。	<u>わかりやすい言葉を使用する。</u>

(2) 出張授業「春日井みらい教室」

	現状等	導かれる考え方
1	子どもにもわかりやすい内容や関心を惹く内容とする必要がある。	<u>わかりやすい内容、見やすいものにする。</u>

3 次期総合計画の基本的な考え方に関する審議会委員の主な意見

	現状等	導かれる考え方
1	総合計画を策定する必要性、位置づけなどを示す必要がある。	総合計画の策定に関する規定を明確にする（条例の制定）。
2	総花的で、何に力を入れているか見えない。選択と集中が必要。	<u>重要な施策を明確化する。</u>
3	今後充実すべき施策・項目や施策の優先順位が明確でない。	
4	項目を網羅的にかき集めても単なる烏合の状態となるため、軸となる基本コンセプト（例：子育てをしたくなる街）が必要。	
5	著しく変化する社会に対応できる計画とする必要がある。	
6	市民・職員にわかりやすいもの、共有しやすいものがよい。	わかりやすい言葉・内容、見やすいものにする。
7	10年計画では、市長任期（4年）とあっていないため、マニフェストが活かさない。	<u>基本構想や基本計画の期間</u> のあり方を検討する。
8	20年、30年先を見据えた視点が必要。	
9	施策ごとの目標達成評価を分析し、検討視点を「見える化」するとわかりやすい。	<u>わかりやすい成果目標</u> を設定し、効果検証を行う。
10	計画の目標を極力わかりやすくし、市民と共有する。	組織（各分野）におけるPDCAサイクルを確立し、外部有識者等による全体検証を行う。
11	事業・活動の検証作業を毎年行っていく仕組みを取り入れるべき。	
12	行政評価は、個別縦割評価ではなく、総合的な進行管理も必要。	

※個別の施策に関する事項や今後検討すべき事項は除いています。

4 次期総合計画の基本的な考え方（案）

(1) 総合計画の役割

ア 総合計画を本市の最上位の計画と位置付けるほか総合計画の策定に関する条例を制定する。

イ 基本構想は、市のまちづくりの指針であり、長期的な市の将来像及びその実現に向けた基本目標を掲げる。

ウ 基本計画は、基本構想を実現するための施策の基本的な方向性及び体系を掲げる。市は、基本計画を実現するための具体的な事業を整理する。

(2) 戦略的な計画

限りある経営資源を効果的かつ効率的に活用するほか、市民にわかりやすいものとするため、市の重点施策を明確化する。

(3) 見やすい、わかりやすい計画

市民にも職員にもわかりやすいもの、使いやすいものとするため、わかりやすい構成、表現とする。

(4) 効果検証を重視した計画

ア 効果検証を効果的に実施するため、わかりやすい成果指標（目標）を設ける。

イ 効果検証を効率的・効果的に実施するため、各分野の行政計画との整合を図るとともに、これらを活かした計画とする。

ウ 効果検証の結果を施策や事業の見直し・改善へと効率的・効果的につなげるため、組織（各分野）におけるPDCAサイクルを確立し、予算編成等を連動させるほか、外部有識者等による全体検証を行う。